

子ども・妊産婦



中間評価時の現状

①栄養・食生活	朝食を欠食する子どもが増えています。 望ましい時間に寝ていない子どもは朝食の欠食の割合が高いです。
②身体活動・運動	運動しない理由で多いものは、小学生は「テレビゲームやパソコンなど室内の遊びが楽しい」、中学生は「運動することがきらい」でした。
③休養・こころの健康	メディアの使用時間が長い子どもは、学校が楽しくないと答える割合が高いです。
④飲酒	飲酒経験のある子どもの割合は減少しましたが、1割弱いることがわかりました。そのきっかけは、小学生は「家族に勧められた」、中学生は「興味があった」という理由でした。
⑤喫煙	小中学生の前で家族が喫煙する割合と妊婦の同居家族の喫煙者の割合は減少していました。
⑥歯と口腔の健康	子どものう歯の本数は、減少しています。
⑦健康管理	メディアを使う時間が長いと就寝時間が遅い傾向があります。 家庭での乳幼児の事故防止対策の中で浴室の対策をしている割合は減少していました。

中間評価における子ども・妊産婦の課題

メディアと生活習慣の関連が各分野の課題としてあがっていました。生活リズムに悪影響を及ぼさないようなメディアの使い方を、身につけるための取り組みが必要です。

今後の取り組み

子ども

毎日朝ごはんを食べます。

体を使った遊びをします。

早寝早起きをし、夜更かしはしません。



家庭

子どもたちに運動の楽しさを伝えます。

1日1回は家族で食事をし、会話を楽しみコミュニケーションを図ります。

ゲームやインターネットは使う時間と場所を決めて、親子で約束し、保護者の目の届くところで管理します。

「食べなさい」と言葉で言うのではなく、朝食を家族自ら摂り、子どものお手本になります。

テレビ、スマートフォンなどのメディアの利用時間の適正を図り、家庭内で「寝ましょう」と就寝の声をかけ合います。

行政・関係機関



朝食を食べる大切さや、主食・主菜・副菜のバランスのとれた食事の大切さについて普及・啓発します。

情報モラル研修を継続して開催します。